

国税査察官、映画「マルサの女」板倉査察官と 査察の今昔について語る



昭和 23 年 7 月に査察制度が発足し、今年で 60 周年を迎えることとなった。

また、昭和 62 年 2 月に上映された映画「マルサの女」が大ヒットしてから 20 年余りが経った。

そこでこの機会に、映画「マルサの女」で主人公の板倉査察官役を演じた俳優の宮本信子さんをお招きし、全国で日夜活躍しているベテラン査察官とともに、査察の今昔（20 年前と現在）や体験などを語っていただいた。

～出席者～

俳優：宮本 信子 (敬称略)

札幌国税局：中川 修 仙台国税局：佐々木真治 関東信越国税局：櫻井 利昭

東京国税局：岡崎 正江 東京国税局：澤田 航 金沢国税局：中井 桂子

名古屋国税局：足立 泰弘 大阪国税局：福田 正己 大阪国税局：福井美津子

広島国税局：藤光 昭夫 高松国税局：吉成 徳雄 福岡国税局：梶原 篤典

熊本国税局：緒方 伸泰 沖縄国税事務所：石垣 博一

国税庁調査査察部長：杉江 潤 国税庁査察課長：上羅 豪 【司会】
(現・関東信越国税局長)

■司会： 今日の司会進行役を務めさせていただきます、査察課長の上羅です。また、本日の座談会には、昭和 62 年に大ヒットとなりました映画「マルサの女」で板倉査察官役を演じられた、女優の宮本信子さんをお招きしています。

まず始めに、杉江調査査察部長と宮本さんからご挨拶をいただきたいと思います。

■杉江： 査察制度は、昭和 23 年 7 月に大蔵省主税局に査察部が創設されてから今年の 7 月で満 60 年、還暦を迎えることとなりました。査察制度は、税務行政の一環として、大口・悪質な脱税



杉江調査査察部長

者に対して刑事責任を追究し、その一罰百戒の効果を通じて、適正・公平な課税の実現と申告納税制度の維持、確保という重要な使命を担ってきています。これまでに、数々の巨額な脱税事件を手掛けてきたことや、宮本さんが主演された映画「マルサの女」のおかげもありまして、査察の存在は国民各層にも広く知られるようになりました。

本日は、60 年という節目の年に査察制度を国民の皆様にご理解していただくべく、映画が上映された 20 年前と今現在の査察の現状の違いなどを、宮本さんと査察の第一線で活躍している全国の査察官に語り合っていたくため、座談会を開催させていただいた次第です。

■宮本さん： 久しぶりに国税庁に入りまして、すごく懐かしかったです。当時の撮影の状況とか、色々お世話になった査察の方をパッと一瞬のうちに思い出しまして、「あ



宮本さん

あ、随分色々な方のお世話になって、『マルサの女』という映画が出来たんだな。そして、お客様に随分見ていただいたな。」と、改めてそう思いました。

今日は、なんだか私が調べられているようで、非常に緊張しておりますが、よろしく願います。

【映画「マルサの女」の感想・影響等について】

■司会： 最初に、映画「マルサの女」の感想、影響などにつきましてお話してください。

■福井： 私は、試写会で映画を観させていただきました。板倉査察官が、辞令をもらって喜んで廊下を走っているシーンがありました。私の場合は、嬉しさよりも不安の方が大きかったですね。



福井さん

映画が上映されてからは、女性査察官ということで取材も結構ありました。調査先では、「これがマルサの女か。」というように見られました。でも、相手が映画を観ているということで細かい説明をしなくて済んだということもありました。それから 15 年くらい経って、金融機関に行く機会がありまして、その時も映画の話題が出て、映画の影響はすごいなと感じました。

■宮本さん： 全国津々浦々まで「マルサ」という言葉が知られたってことはすごいことですね。私も税務署は身近で分かっていたんですけど、もっとすごい組織があったということに初めはびっくりしました。

私も、映画がヒットして、「あっ、マルサが

来た。」とか「マルサの女だ。」とか言われたりすることもあったり、「実はねー、税務署に入られたんだ。」と笑いながら訴えられたんですよ、何人もの方に。ですから、私、「大変でしたね。これからは健全な経理ですね。」とか、「必ず企業はまた大きくなるのですから。」というお話をしたりして。やっぱり、私が女優ですから言い易いんでしょうね。何と言ってもマルサですから。そんな時は、本当にこの映画がヒットしたんだなとしみじみ思いました。

■藤光： 私は、税務署に勤務していた時に初めて「マルサの女」を観ました。当時は、査察という部署があるのは知っていたんですが、実際にどのような仕事をする所なのか全く知らなくて、映画を観て、この組織の中にこんな仕事をする部署があるのだなと思いました。

強制調査の場面を見て、こういう仕事もできればやってみたいなと思ったのが、当時の感想で、その6年後に希望して査察部に入りましたが、入ってみると映画のようではなくて、いかついおじさんばかりいて、職人気質の厳しい男の世界のような印象を受けました。

映画の公開から20年経っているのですが、最近の調査事案で、ある嫌疑者の奥さんが「映画と一緒に、もうこれ以上ごまかせない。」と思ったらしく、ガサが終わってから「正直に話しますから。」と全面的に認めたことがありました。今でも、映画の印象が納税者に残っているのだなと驚きました。

■宮本さん： そうですか。それは、伊丹監督が聞いたら喜ぶでしょうに。

■石垣： 私は、東京の税務署に勤務していた時に映画を観に行ったのですが、スーツを着た、似たような格好をしたうちの関係者と思われる人たちがズラッと並んでおりまして、ちょっと異様な感じでした。その辺でもちょっと普通

の映画とは違うなと感じました。

映画では、スライドのように隠し場所のシーンがパツ、パツと出てきまして、すごく印象に残りました。ただ、査察に入ってから、ああいう派手な場面はそうは無く、ガサをするにも体力が必要で、荷物を運んだりとか、その1日が終わると、後から地道な仕事がずっと続くんです。それを実感しています。

■宮本さん： やっぱり、映画はいいところだけで、何かすごく派手で、かっこいいと思われるんですけど、実は、水面下では、すごく地味なんですね。

■澤田： 映画が上映されていた時は、まだ高校生でして、映画館で「マルサの女」を観たことはなく、大学生の時にテレビで映画を観て査察という仕事を初めて知りました。泥臭い内偵活動、実際のガサ日の大掛かりな調査、徹底した捜索などを踏まえたところで、最終的には何億円という脱税結果が出て、そういう流れが非常に華やかに目に焼き付き、そうした中で就職の時期を迎えました。是非、査察の仕事の華やかさ、苦勞、達成感を味わいたいと思って国税の職場に入ったものの、実際の現場というのは、ただ地道な調査の繰り返しで、全然華やかさは感じられませんでした。確実に達成感はあると思っています。

査察に入って8年になりますが、ガサの当日には何百人という査察官が動くということに、



石垣さん



澤田さん

その責任の重さというものを感じています。しかし、その重さがある分だけ達成感や何事にも代えられないような喜びを感じられます。私は、その達成感というか、査察の仕事を教えてくれた映画「マルサの女」には非常に感謝しています。

■宮本さん： いやー、もう、すごいですねー。映画をご覧になってそういう道を選ばれるというのは。いやー、感動します、本当に。

■櫻井： 私が映画を観たのは、査察で駆け出し3年目の時でした。何回も観て、一番心に響いたのは、板倉査察官と嫌疑者の自然体の幾つかの会話のやりとりで、お互いの身の上を素直に受け入



櫻井さん

れて、人格を理解してのやりとりの場面、これが非常に心にしみました。査察3年目でしたから、目から鱗が落ちるような場面であったということをよく記憶しています。

攻めるだけじゃなく、聞き役に回る勇気を持たせていただき、どんな事件でも最後は説得なんだなということを非常に痛感した場面でした。

【映画「マルサの女」の 撮影時のエピソード】

■司会： 宮本さんから、映画撮影時のエピソードをご披露いただけませんか。

■宮本さん： 私は、あの映画に出るまで、マルサというところは知りませんでした。払わなくちゃいけない税金は払わなくちゃいけないと、もちろんそう思っているんですけど、税務申告も税理士にお任せしていて、税に対してあまり考えてなかったんだと思います。ですから、税

務署にも行ったことがなく、税務署の人がどういう仕事をしているかというのも分からなかったので、「マルサの女」を演ずるに当たって、「そういう現場の女性の方を紹介してください。」とお願いして、税務署の女性の上席調査官を紹介していただき、差し支えない範囲でその方にくっついて税務署で座っていたり、外に出かけたりしました。そこで、税務署の方は数字が並んでいるのを見るだけで、分かるんだということがよく分かりました。そして、数字に意味があるということを知りました。「あー、税務署の人って、物事を数字で考えるんだ。」と感じました。それから、外を歩いても、看板をしょっちゅう見て、しかも、普通の人と見方が違う、目が違います。その職業が作った目というものを女優としてすごく気になりました。人を見る目、看板を見る目、数字を見る目、税務署の人でなければできない目というのをその女性の上席調査官と一緒に教えてもらいました。そういうところが映画に反映されたんだと思います。

私は色々な役をやりますが、その役が培ってきた生き方、物の考え方などたくさん考えます。キャラクター、性格が全部役の中にぎっちり詰まっている。また、税務署やマルサで働いている



宮本さん

人の職業が作った顔を表現し、演じるのが女優として面白い。この映画のおかげで、税務署職員や査察官の本当に地道な努力、正義感、責任や達成感というものがよく分かりました。私もそうですが、すごく辛い仕事ほど達成感があります。

それから、映画の中ですごく印象に残ってい

るのが、ゴミを漁るシーン。あれは、どこかのゴミ捨て場に行ったんじゃないくて、撮影場の近くの土手かなんかに美術部が集めたゴミをいっぱい積んで撮影しました。主人公が一番ひどい目に遭うのがいいんだ、泥々になって、雨に濡れて、それが映画的だ、というのが監督の考え方で、もう、鼻が曲がってしまうくらい臭いところを、ホースで降らした雨に濡れながら敢然と立ち向かって、それで、撮影もうまくいって、「やったー。」と思ったら、「すみません、もう一回やってください。実は、フィルムに傷が付いてました。」って。スタッフもまたゴミを集めるの大変なんです、そんな苦勞がありました。

【宮本さんへの質問】

■吉成： 仮に、宮本さんが査察官になれるとしたら、手を挙げられますか。

■宮本さん： 手を挙げるとは思いますね。やはり、何か生きがいを持つ仕事というのは、とても素晴らしいと思います。それはどんな職種でもそうだと思います。査察というのは特別で、絶対人に言っちゃいけない、秘密を守らなくちゃいけない、それから、辛いことが結構多いんじゃないかと思うんですが、悪質な者に対し、敢然と立ち向かう方がいてくださらないと困ります。もし私が女優じゃなくて、税務署に勤めていたら、やはり査察に行きたいと思います。

■梶原： 宮本さんが演じられた板倉査察官の「おかつぱ頭」、「寝癖」、「そばかす」といった地味な格好はどうやって出来上がったんでしょうか。

■宮本さん： 映画に入る前にイメージを監督と色々すり合わせていくんです。「マルサの女」の「おかつぱ」というのは、割と初めから

あったと思います。「そばかす」は、監督が結構好きでして、きれいにお化粧していても、画面で見れば、映画的な顔っていうのがあって、強烈な印象を残す、この人なら大の男が納得するだろうというキャラクターにまで持っていくには、やはり何か加えなくちゃいけない、それで「そばかす」、あれ、3種類くらい色を使ってるんです。形もよく見ると色々ありますので。ファッションはダボダボの、刑事コロポのイメージだったと思うんです。「寝癖」は、うちの次男坊が朝起きると寝癖が付いて、もしよもしよになっていて、監督はそれが面白いということで、出来ました。

【査察官の人数及び女性査察官の役割について】

■宮本さん： 今は、査察官はどれくらいいらっしゃるのですか。20年前と比べて、女性も増えていらっしゃるのでしょうか。

■司会： 20年前の人員は、960名中女性が3名、女性の割合は0.3%と非常に少なかったんですが、平成18年になりますと査察官の数は1,370名、当時の1.4倍、女性の査察官は67名で全体の約5%になっています。

■宮本さん： それは、女性を必要とする仕事が多くなったということですか。奥さんやその他関係のある女性なんかの着衣や所持品の検査とかだけじゃなくて。

■岡崎： 私が査察官になった平成元年当時は、女性査察官は大概愛人などの特殊関係人や社長の奥様の担当になりました。それは、男性よりも女性の方がよりスムーズにい



岡崎さん

くという理由だったのですが、当時、年間 50 件くらいガサに出ており、そのほとんどが自宅で奥様やお子さん、後は特殊関係人に当てられ、さすがに、もうそろそろ、別の場所に行かせてほしいと生意気なことを言ったことがありました。しかし、代表者の居宅や特殊関係人の居宅というのは現場の中で非常に重要な場所ですから、そういうことを経験したということは、自分の財産になりました。

今はどうかというと、当然、奥様などの対応というニーズもありますが、実際に女性査察官も現場を仕切るようになっており、頼もしいなという気がしています。

■中井： 私は、まだ経験が浅くて、同僚の足を引っ張ることが多く、男性の査察官に支えられて毎日仕事をしているなということを年数を重ねる毎に感じています。いつかは、女性の感でピンと



中井さん

きて、事件が前進するということをやってみたいと思うんですが。

■宮本さん： 相手が奥さんとか特殊関係人だと、女同士の話ってありますよね、そういうことは、すごく重要ですよ。

■岡崎： 映画の効果だと思いますが、奥さんから、「本当に女性査察官っているんですね。がんばってくださいね。」って言われたこともありました。

【脱税の主な業種・手口等について】

■司会： 映画の中では、パチンコ、ラブホテルを経営している会社の脱税がありました。20



上羅査察課長

年前の主な脱税の業種は、パチンコ、モーテル・ラブホテル、不動産業とか株取引が典型的な業種でしたが、最近では、当時は無かった消費税の脱税が増えていきますし、時代の背景とともに、脱税の形態も変わってきています。また、規制の隙間でビジネスを展開しながら脱税している者も多くなっています。従って、我々も頭を柔軟に切り替えて、既存の業種に囚われない取組をやっていかなければならないと思っております。

■澤田： ここ数年比較した中で、顕著に感じるのは、消費税の事案が目立ってきているということです。また、資金繰りに困っている会社にブローカーが目を付けて、資金援助に協力して、その見返りとして受け取った手数料を除外した事案もありました。そのほかには、業界で規制や緩和があり、顧客のニーズも変化しているため、昔からの業種であっても実際の商売の中身は随分変わってきています。

■足立： 変わった業種として、アパートを借りる際に、家族や親戚・知人の代わりに身元保証人となって、不動産業者からの問合せにも対応するといったことを商売としていた者の脱税がありました。

■緒方： 最近では高齢化やメタボということが話題になっていますので、健康食品の製造などが伸びています。また、産業廃棄物処理では、全国で業者が捨てる場所を求めています。ですから、処



緒方さん

分場の取得には多くの利権が絡んできます。結

局、土地を取得している者が勝ちだと思います。

■宮本さん： 今の産業廃棄物の話ですが、伊丹監督が亡くなる前に、産業廃棄物の問題でテレビに出たことがありました。それで色々取材しまして、結局、闇の世界が絡んでいたようです。利権もそういう所に行っちゃって、つまり、一番人がやりたくないことに利権が行き易いんだと思うんです。その時は、アンタッチャブルと同じで、そっちの方から行かないと世の中は良くならないのかしらと思ったりしました。

■司会： 我々は、人・物・金が動く時、その裏に脱税ありという考え方で、いろんなアンテナを張って仕事をしています。

そのために、色々な専門知識も吸収してもらい、特に若い人たちには、国際化に対応できるように研修などをやっています。日本人だけでなく外国人が脱税をしている例も増えてきていますので、語学もできる人を育てています。

■宮本さん： 映画のように、風俗店でビール券を渡すだけじゃダメですね。そういう時代じゃありませんね。

■福田： 先ほど消費税の脱税が増えているという話がありましたが、素人が見ただけでは判別できない人工宝石を輸出したように仮装して消費税の還付を不正に受けたという事案がありまし



福田さん

た。この手口は、仲間の宝石業者に頼んで、人工宝石を国内で仕入れたことにして請求書や領収証を作ってもらった上、その人工宝石を輸出したように装うため、実際に海外に持ち出して、税務署に虚偽の還付申告書を出して不正に還付を受けていたというものでした。そして、海外に持ち出した人工宝石はもったいないので持つ

て帰ってきて、こういう行為を何回も繰り返していました。相手は、色々な偽装工作をして絶対にバレないと思っていたんでしょうが、査察官が緻密に証拠収集をして、厳しく追及したところ、やっと認めて全容が分かりました。

■佐々木： 私が紹介するのは、典型的な手口ですが、複数の県に跨って違法風俗店を運営していた者が、警察の摘発や国税当局の調査の手から逃れるために、実際には自分がオーナーとして事業



佐々木さん

を支配しているにもかかわらず、従業員を経営者に仕立て上げて、警察への届出、店舗の賃貸契約、税務申告などを従業員名義で行わせ、更に、それを頻繁に変更して巧みに追及を逃れていたという事案がありました。

■緒方： 今、複数の県に跨った事例の紹介がありました。最近の脱税は、全国規模になりつつあり、例えば、売上代金の回収口座を全国の金融機関に設けるというケースもあります。こういう全国に及ぶ事件の場合は、全国の査察官が協力して対応しています。

■宮本さん： 横のつながりがすごいということですね。

■櫻井： また、最近は、無申告事案が多くなってきています。看板も掲げず、勝手に人の屋号を使うなど、名前を偽って事業を行い、一切申告をせず、多額の利益を分散して隠していた者を映画であったように、張込みをして出入業者を調べたり、事業分析をして金額の積み上げを行ったりして、足掛け2年間追いかけて立件しました。

■中川： 無申告の場合は、最初から申告をするつもりはありませんので、帳簿を付けていな

いことも多く、お金の動きなどを丹念に調べて金額を積み上げていかなければならないので、一般の事案よりもかなり手間が掛かります。

■司会：「難題であってもひるんではならない。」ということで、皆さんにご苦労いただいています。先ほどの消費税も国に対する一種の詐欺であり、また、無申告も善良に納税されている方を裏切る行為ですので、我々は真剣に取り組んでいます。

■宮本さん： 相手が、「ここはもう仕方がない。ああ、ここまでだろう。」って思う時、相手の心が開く時というのは、どういう場合でしょうか。

■緒方： 私が初めてのガサ入力で特殊関係人の担当になった時に、ちょうど雨が降っておりまして、その女性に傘を貸してあげたら、私にしかしゃべらないと言い出したことがありました。そんなことで心が開く場合もありますね。

■梶原： 私の場合は、瘦せたおかげで、相手が心を開いてくれたことがありました。健康食品関連会社を担当した時で、その社長は社会的な地位があり、また、ちょうど私と同世代の息子がいたこともあって、当初、私の話には耳も貸してくれませんでした。それで、どうしたものかと思ひまして、自分の体型を利用して、ダイエットの相談を試みたら、そういう話題にはよくしゃべり、おまけに、ダイエット体操まで教えてくれました。そこで、結果を出したら脱税についてもしゃべってくれるのではと思い、エアロバイクを買い込んで、毎日夜中に1時間エアロバイクを漕ぎ続けたところ、10キロくらい痩せまして、それから、やっと脱税について



梶原さん

しゃべってくれるようになりました。

何がきっかけになるか分かりませんが、相手に応じて、相手にどういう話をすれば心を開いてくれるのかということを考えてやるところが、きついです。これが査察の醍醐味だと思います。ちなみに、その事件が終わったら、体型はすっかり元に戻ってしまいました。

■福田： 私は、逆に、目つきが悪いとよく言われます。昔、現場で突然、「あんたはさっきから気に入らないのよ。」と言われたことがありました。何でかよく分かりませんが、あれにはびっくりしました。

【隠匿事例】

■司会： 査察調査は、着手日に、脱税資金で蓄財した現金、預貯金、債券などいわゆる溜まりをきちんと見つけることが重要ですが、この辺で失敗談も含めて、幾つか隠匿事例を紹介してください。

■中川： 私の場合は失敗談で、査察官1、2年目に嫌疑者宅に張り付けになった際、嫌疑者がタンスの中に数千万円の定期預金証書があると供述したので、私を含む何人かでタンスを捜索したの



中川さん

ですが、どこを探しても出てこない。そこで嫌疑者を追及したところ、タンスの中にあつたビニールパックに入った未使用の男性用下着の厚紙の下に入っていたことが分かりました。私も他の人もそのビニールパックの下着を手にとって見て、「これ、はがした形跡がないよな。」と確認していただいただけにタンスから出てきた時には、

ショックで翌日以降立ち直るのに大分苦労しました。

■中井： 当初の捜索では溜まりは発見できなかったのですが、社長を追及したところ、自宅の洗面所の丸い鏡を取り除いた壁に穴を開けて隠していることが分かり、捜索した結果、その中から多額の現金と株券が出てきました。後から知ったのですが、その社長の趣味は日曜大工だということでした。

■佐々木： 昔、ハト小屋として使っていた物置に多額の現金を小分けにして隠していたということがありました。最初に自宅を中心に捜索を行ったため、夕方近くになってハト小屋の捜索を開始し、そこで多額の現金を発見したので、全部確認するのに深夜までかかってしまいました。

■宮本さん： ハト小屋だったら、餌だとかの袋が沢山あったと思いますが、すぐに分かりましたか。怪しいって。

■佐々木： 全く分かりませんでした。暗くなりかけていたので必死に捜索をして見つけました。

■司会： 平成15年に本人確認法が施行され、仮名・借名預金口座の開設が困難となり、不正資金を現金で保管しているケースも多々見られます。

■福田： ガラクタが入っていると思い込んで確認を後回しにしていた段ボールを開けてみたら、現金の塊が入っていたのでびっくりして、同じように置かれていた他の箱も開けてみたら、全部現金が入っていて、現場が大騒ぎになったことがありました。

結局、銀行の現金輸送車と国税局の車に何人も乗って銀行に運び、それから、朝から晩まで2人で3日かけて数えました。

【高度情報化への対応】

■司会： 最近はコンピュータやインターネットが普及しており、こういったものを利用した取引も増え、脱税の形態も変わってきていますので、幾つか紹介してください。

■福田： 最近は、税務当局には分からないだろうと考えているのか、インターネット関連の脱税が増えています。遠隔地で複数の出会い系サイトを運営していた者が、専門誌などに広告を出したことで、アクセスが急増してものすごく儲けたにもかかわらず、全く申告していなかったという事案がありました。

また、若者に人気のウィッグやエクステンション、偽ブランドの財布やバッグなどをインターネットで販売していた業者などの脱税も目に付きます。

■足立： 私が紹介するのは、高度情報化に逆行していると言いますか、コンピュータはほとんどWindowsで動いているという今の時代にそれが普及する以前のMS-DOSというアプリケー



足立さん

ションを使って売上等を管理していたというものです。当初は、古いデータが入っているだけだろうと思い込んでいたのですが、念のためファイルを開いて、データをエクセルファイルに変換したところ、つい最近までのデータが入っており、不正の全貌を把握できたという事例がありました。

■司会： 高度情報化事案を支援するセクションとして、東京局と大阪局に査察開発課がありますので、その支援状況を紹介してください。

■福井： 経済取引の IT 化の進展に伴い、ほとんどの企業が会計帳簿等を電子データで保存しており、その電子データの証拠化は膨大かつ困難化しています。査察開発課では、事件着手日に捜索現場において、電子データのバックアップ等の証拠化を行うほか、パソコン本体や MO 等差押物件のデータの復元・解析などを行っています。

また、ブロックの局からの支援要請に対しても積極的に対応して、電子データの復元・解析などを行っています。

【国際化への対応】

■司会： 最近の経済・金融取引のグローバル化に伴い、不正資金も国内に預金するだけではなく、海外に送金したり、預金したりするケースが多くなっています。こういう海外を利用した不正の手口について、紹介してください。

■岡崎： 日本で脱税した金を海外に持って行ったがゆえに、その国でマネーロンダリングの捜査対象になったという事例がありました。その時は、その税関、国税、検察などの 10 名くらいの捜査チームが日本に捜査共助で来て、一緒に話をする機会があり、こちらも脱税に関して同じような仕事をしているということを理解してもらえて良かったです。

■藤光： 海外で事業を行っている会社が現地の業者に外注費を払う際、金額を水増しして支払い、その水増し部分を現地で現金で受け取って、それを国内へ持ち込むという手口で脱税していた事例



藤光さん

がありました。また、海外調査の手法の一つとして、租税条約に基づく情報交換依頼を行って、条約締結国の税務当局に調査をしてもらうことも出来るので、今後は情報交換依頼を活用する事例も増えていくと思います。

■司会： 東京や大阪の査察国際課を中心に海外取引事案について支援を行っています。これも単に東京、大阪だけじゃなく、地方でもそういう事案があれば、東京、大阪の国際専担者が支援するというネットワークがあります。それでは、東京局、大阪局の査察国際課の支援状況を紹介してください。

■澤田： 査察国際課には、不正に加担している疑いのある海外法人が実在するかどうかの確認のほか、通訳あるいは外国語文書の翻訳といった依頼が多く来ますが、それだけではなく、国際化事案に対しては、内偵段階から関わって何が必要かを少なくとも事件担当者よりも先に検討するなど、積極的な支援を行っています。我々は、常に新しいものに目を向け、そして、幅広く考えることができるよう、情報を査察国際課の中で共有していくことが大事だと思っています。

【苦労話・後輩への一言等】

■司会： 最後に、苦労話、やりがい、後輩への一言をお願いします。

■吉成： 査察に入った 1、2 年目ころに、クラブの潜入調査をやることになったのですが、客として実際に店に入るのは大体 3 年目以上の先輩で、私たち新人は外で待機し



吉成さん

て、社長が帰る際の尾行担当で、当時は、「何でこんな仕事をやらなければならないのか。しんどいなあ。」と思いながら、尾行した記憶があります。それは当時、社長の動向調査の必要性を十分に承知していなかったからだと思います。査察の仕事は、内偵調査やガサをして証拠をつかみ、金額を積み上げていくもので、その結果が自分の想定と同じだった時は、一番やりがいを感じる時です。

30年余り国税の仕事をやってきましたが、自分の好きな仕事は査察だと感じています。

■石垣： 私は、内偵中に車で住宅街で張込みをした際、対象の家が見える位置に車を止めていたら、ちょうどその前の家の人に不審に思われて、「何してるんですか。邪魔だから行ってください。」と言われ、バケツに入った水を掛けられたことがありました。

■櫻井： 今日集まっている査察官の皆さんもそうだと思いますが、出だしは税務職員だったのが、何かの縁で査察に身を置くことになり、その時から、想像もしなかった重圧がのしかかってきたのではないかと考えています。税金を納めて終わりではなく、刑事責任を追及するわけですから、生半可な気持ちでやれるはずはありません。絶対に間違っただけいけない仕事だと思っています。

この厳しい査察の世界と検察官、それから色々な人に沢山のことを学びましたが、若い人にはどんなに苦しくてもじっと耐えて、そこで調査の技術を自分のものにして、また、新たな世界に飛び出して行ってほしいと思います。

それから、何十年も続いた査察の上下関係は、少しずつ形を変えてきています。一方的な命令や押し付けでは成り立たない世の中になってきています。査察は、過去の実績を十分持ち合わせているプロパー集団ではありますが、これか



らは特に、話し合っ、理解しあっ、納得しあっ事に当たらせるという勇気と空間が必要だと思っています。

また、上司や幹部は、信頼される人物であることが絶対的条件になってきていると思いますし、何よりも自分自身を磨いてほしいと思います。知識を出し合えるチーム作り、それから若い人の素直な意見を聞く耳を持つ幹部、そういう幹部にいてほしいなと思います。

■福田： 私は、昭和51年に25歳で査察に入りまして21年目になりますが、最初は決して希望して来たわけではありません。どんな仕事をするのかも分かりませんでした。先輩たちの情熱などを見ながら仕事を覚えました。当時はよく、「仕事はいちいち教えるものじゃない。先輩の背中を見てたら分かるだろ。」と言われました。今の人にそんなこと言っても通じないと思います。ただ、ここ2、3年、職員の採用時に志望動機を聞くと、若い人が、「査察の仕事がしたい。」と言います。私が、「映画に出てくるような、あんなカッコいいことばかりじゃなく、しんどいことの方が多いいよ。」と言っても、「それでもしたいんです。」と言う人がいます。実際、私の下にも査察の仕事をするために税務署に入ったという人がいて、そういう気概のある人がいてくれると嬉しいですね。

税務職場で査察ほどやりがいのある職場はないと思います。しんどいですが、その何倍もの達成感や喜びがあります。自分が内偵した者が

実際に脱税しているのをつかんで、刑事責任を追及するというを若い人に早く経験させてあげることが大事だと思います。いつも部下にはガミガミ怒っていますが、本当は情熱のある人をひとりでも多く育てたいというのが私の気持ちです。

【査察の良き伝統を次世代へ】

■杉江： 大変有意義な話や現場の苦労などを色々と聞かせていただきました。

話にもありましたが、時代によって儲かっている業種が変ってくるわけで、我々は、そのような時代の変化に的確に対応していく必要があります。今後更に、経済のグローバリゼーションが進展し、査察を取り巻く環境もどんどん変化していくと思われませんが、我々としても、従来の施策・手法に新たな工夫を加えて、制度面で改正が必要なものについては、積極的に税制改正要望を行っていきながら、時代の流れに合った査察の仕事のやり方を考えていく必要があります。是非、皆さまには、社会的波及効果の高い、新たな調査困難事案への積極的な取組をお願いします。

また、将来の査察を担っていく若い人材の育成が特に重要であると考えています。査察は非常に専門性の高い職人の集まりですが、その職人が持っているノウハウ、技術をどうやって若い人に伝えていくかということが、大きな課題だと思っています。

是非、査察の良き伝統を次の世代に引き継いでいただくように、後輩への指導をお願いします。良き査察の伝統を守って、新しい課題へ果敢にチャレンジしていただくことをお願いします。

【全国の国税職員への激励の言葉】

■司会： 最後に宮本さんより、全国の国税職員に激励の言葉をお願いします。

■宮本さん： 今日、皆さまにお会いできて本当に嬉しかったです。「マルサの女」がなければこういう機会はなかったと思いますし、それに何よりも、映画を観て、査察という仕事を選んでくださって、直接私がお会いできた、これも嬉しかったですし、それと女性の査察官にもお会いでき、ものすごく喜びでした。職業こそ違いますが、自分の女優という仕事は職人だと思っております。いい職人になりたい、そして、監督が認めるいい素材でありたい、そういうふうにもいつも思っております。職人という言葉は、本当に、その道のプロフェッショナル、素晴らしい技を持ち、そして、成長し、機会を活かして、もっともっと上を目指していくことだと思います。

今日、貴重な話を沢山伺いまして、益々、皆さまがそういう気持ちを持っていらっしゃるということを感じました。

「納税は当然のことなんだ。」と何度言っても、まだまだ分かっていない人もおります。分かなければいいだろう、払わなければそれでおしまいみたいなところが、残念ながらあると思います。

国家財政も逼迫しておりますので、どうか、皆さまには、苦労が沢山あるでしょうが、悪質な納税者には、きちんと対処していただけたらと心からそう思います。今日は本当にありがとうございました。

■司会： 長時間にわたり、お付き合いいただきまして、本当にありがとうございました。